

30【P2】 I -343

沖縄産海綿 *Plakortis* sp.より単離した新規オキシリピン Plakevulin A の構造

○津田 正史¹, 遠藤 忠¹, Marinela Perpelescu², 吉田 松年^{2,3}, 小林 淳一¹(¹北大院薬,²名大院医病態制御,³偕行会リハビリテーション病院)

【目的】沖縄産海綿 *Plakortis* sp.より新規オキシリピン化合物 Plakevulin A (**1**)を単離し、その絶対立体配置を含めた構造を明らかにしたので報告する。

【実験及び結果】沖縄・瀬良垣で採取した海綿 *Plakortis* sp.のメタノール抽出物の酢酸エチル可溶画分を、シリカゲルカラム及び順相 HPLC で精製し、Plakevulin A (**1**, 0.0006% wet wt.)を、Manzamenone A (**2**)など数種の既知オキシリピン化合物とともに単離した。高分解能 FDMS より、**1** の分子式は $C_{28}H_{48}O_6$ であると推定された。**1** の構造は、二次元 NMR データの詳細な解析により、長い脂肪鎖とレブリン酸エステルを有するシクロペンテン化合物であると推定した。また、各種誘導化反応およびそれらの NOESY スペクトルの解析により相対立体配置を明らかにし、改良 Mosher 法によりその絶対立体配置を 1*S*, 4*S*, 5*R* であると帰属した。

【考察】**1**は、同属の海綿より以前に単離された Untenone (**3**) の1位還元体のエステルに相当するが、**3**がラセミ体であるのに対し、**1**はキラルな化合物である。**1**には、培養腫瘍細胞に対して殺細胞活性ならびに DNA Polymerase 阻害活性が認められた。

